

平成30年度 第2回

# 鳥栖市文化財保護審議会

1. あいさつ
2. 新任委員の紹介
3. 議 題
  - (1) 報告事項
  - (2) 現地視察
3. その他

日 時 平成31年2月28日(木)  
午後2時～

場 所 鳥栖市役所2階第1会議室

鳥 栖 市 教 育 委 員 会

## 1. 報告事項

### (1) 鳥栖駅舎の取り扱いについて

- ・平成30年度に鳥栖駅周辺整備事業の基本設計を進め、その中で鳥栖駅舎の保存活用についても検討していた。
- ・11月下旬に基本設計の発表が行われたが、12月初旬に事業を断念することが発表された。《資料1》
- ・なお、事業担当課より12月4日付教育長宛に事業断念の報告がなされた。

### (2) 鳥栖市明治維新150年記念事業

- ・幕末維新时期に国内最先端の科学技術を育て、明治維新のカギとなり、明治期の日本をリードする人材を輩出した佐賀藩の技と人、そして根底に流れる志を検証し、未来へつなぐことを目的とした肥前さが幕末維新博覧会に合わせ、鳥栖においても現在の鳥栖地域の礎となった鉄道・ハゼロウ・配置売薬の3つの産業にスポットを当て、下記の記念事業を行った。《資料2》
- ・くすり博物館におけるサテライト展示
- ・出前講座(小学校1回、中学校2回、高校3回、一般3回) 9回
- ・講演会 5回
- ・イベント 4件
- ・印刷物等の作成 2件

### (3) 国史跡勝尾城筑紫氏遺跡葛籠城跡地区被災地復旧 《資料3》

- ・7月6日の豪雨で被害を受け、その状況は第1回会議にて報告済み
- ・対応・措置は、下記のとおり
- (被害箇所①) 国・県と協議後、被災地の土砂や礫、倒木の除去、大型土嚢による土留め、農業用水路の復旧を行った。(工期:平成30年7月25日～11月30日)
- (被害箇所②) 道路上の土砂の撤去と土砂の流れ込みを防止する大型土嚢の設置、損壊したガードレールの修理を行った。なお、山林地は私有地のため、本格的な復旧工事は未定。
- (被害箇所③) 現在通行止め。平成31年度に復旧工事実施予定
- (被害箇所④) 館跡北側では堆積土砂の除去、登り口付近では陥没個所に土嚢の充填と真砂土の敷設による復旧措置を行った

#### (4)市重要文化財「西法寺の四脚門」屋根瓦葺き替え 《現地視察1》

##### ①経緯

- ・平成30年4月ごろ、西法寺より雨漏りがあることの報告があり、検討
- ・瓦の葺き替え、屋根下地の修理など軽微な修理と判断し、所有者が実施することとした。
- ・市文化財保護条例第14条第1項の規定により平成30年12月3日付で修理の届出、平成31年2月18日付で報告

##### ②修理の概要

- ・内容
  - ・雨漏りの原因となった野地板、垂木、箕甲北側下地の修理
  - ・破損や欠失した瓦の取り換え
- ・施工期間 平成30年12月24日～平成31年2月4日
- ・施工業者 坂井製瓦合資会社(久留米市城島町)

## 《資料1》

### 大型事業への対応について

(平成30年12月3日市議会全員協議会での市長発言内容)

今回、皆様にご心配いただいております大型事業への対応についての考えを述べさせていただきます。

現在、本市では皆様ご承知のとおり、鳥栖駅周辺整備事業、庁舎建設事業、次期ごみ処理施設建設事業、味坂スマート・インターチェンジ（仮称）設置関連事業などの大型事業に取り組んでいるところでございます。

大型事業の状況についてでございますが、長年の懸案事項でございます「鳥栖駅周辺整備事業」につきましては、佐賀県及びJR九州をはじめとした関係機関のご協力をいただきながら事業費、スケジュールの検討など協議を進めてきたところであり、去る11月27日、基本設計での概算事業費といたしまして橋上駅及び自由通路約80億円を含む約124億円の大きな額となることをご報告したところでございます。

次に「庁舎建設事業」につきましては、概算事業費は65億円でございます、市民の生活を守るための防災拠点として、現在基本設計を実施しており、平成32年度末の完成を目標に鋭意取り組んでいるところでございます。

次に「次期ごみ処理施設建設事業」につきましては、2市3町により佐賀東部環境施設組合を組織し、鳥栖市真木町の旧ごみ処理場に新たなごみ処理施設を建設するため、構成市町での協議等を進めておりますが、本日ご報告いたしましたとおり、建設予定地内に埋設物があることが判明し、現在当該埋設物及び土壌対策等についての今後の対応について構成市町での検討が進められることとなっております。

次に「味坂スマート・インターチェンジ（仮称）設置関連事業」につきましては、国の新規事業化決定を受け、国道3号までの一時アクセス道路整備について佐賀県に要望し、市道付け替えに要する事務を進めているところでございます。

11月27日の鳥栖駅周辺整備事業費のご報告後から、これら大型事業を全て実

施することが可能なのかといったご指摘を受けているところでございますが、現状では全ての事業を進めることは非常に困難であると認識をいたしているところでございます。

こうした状況の中で、関係機関との検討状況をも踏まえ、熟慮を重ねた結果、今後、鳥栖駅周辺事業を進めて行くためには経常経費の見直しにまで及ぶ状況と判断いたし、断腸の思いで橋上駅と自由通路による現計画については断念せざるを得ないという決断をいたしました。

これまで鳥栖駅周辺整備に関わって下さった佐賀県、JR九州はじめ事業推進にご理解ご支援いただいた鳥栖駅周辺まちづくり検討委員会や地元地権者、市民の皆さま。また、長年、鳥栖駅周辺整備に期待を寄せ、お待ち下さった多くの皆さまには、ご迷惑をおかけすることとなりますが、これから丁寧に説明させていただきたいと思っております。

なお、橋上駅と自由通路による現計画については断念の決断をいたしましたが、駅前交差点はじめ鳥栖駅周辺の課題解決策については検討しなければならないと考えております。

以上が、大型事業に対する考えでございます。

## 《資料2》

# 鳥栖市明治維新150年記念事業

### (1) 出前講座

3月23日	廿日会 (鳥栖商工会議所)	25人	7月25日	教職員新採研修	25人
4月16日	鳥栖中学校(3年生)	225人	8月29日	鳥栖市老人クラブ連合会	48人
5月15日	鳥栖中学校(1,2年生)	440人	12月4日	鳥栖商業高校書道部	20人
7月17日	鳥栖小学校	250人	〃	鳥栖高校書道部	22人
			12月6日	鳥栖工業高校美術部	7人

### (2) 講演会

- 9月2日 「鳥栖参志の人・技」講座1 鉄道 73人  
講師 東京大学社会科学研究所 教授 中村尚史氏  
会場 鳥栖市立図書館
- 10月21日 高杉晋作漢詩碑竣工記念講演会 100人 **《現地視察2》**  
講師 国際日本文化研究センター共同研究員 一坂太郎氏  
会場 田代上町祇園神社境内
- 11月10日 「鳥栖参志の人・技」講座2 はぜろう 90人  
講師 福岡大学研究推進室 後藤正明氏  
会場 鳥栖市立図書館
- 11月18日 「鳥栖参志の人・技」講座3 くすり 60人  
講師 佐賀大学経済学部 教授 山本長次氏  
会場 鳥栖市立図書館
- 12月2日 鳥栖市明治維新150年祭記念講演会 300人  
講師 国際日本文化研究センター 准教授 磯田道史氏  
会場 サンメッセ鳥栖

### (3) イベント

- 10月21日 高杉晋作漢詩碑除幕式(田代上町八坂神社境内・長崎街道まつり)
- 12月1、2日 鳥栖市明治維新150年祭(サンメッセ鳥栖・都市広場)
- 12月8日 松田朴伝先生ワークショップ
- 1月5日 書・パフォーマンス「伝 志を感じ、未来へつなぐ」(フレスポ鳥栖)

### (4) 印刷物作成

- ・歴史読本作成                      ・講演録等記録集作成

### (5) 関連事業

- ・鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座(6～1月・5回)
- ・企画展「対馬宗家田代領関係資料にみる幕末の動乱と明治維新」(市立図書館)
- ・長崎街道まつり

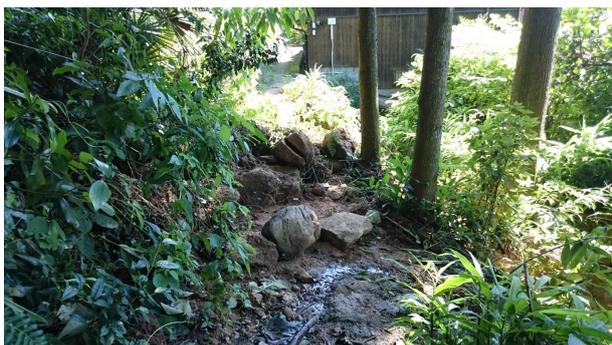
《資料3》

国史跡勝尾城筑紫氏遺跡葛籠城跡地区被災地復旧  
被災箇所①復旧状況

被災直後状況



復旧後状況

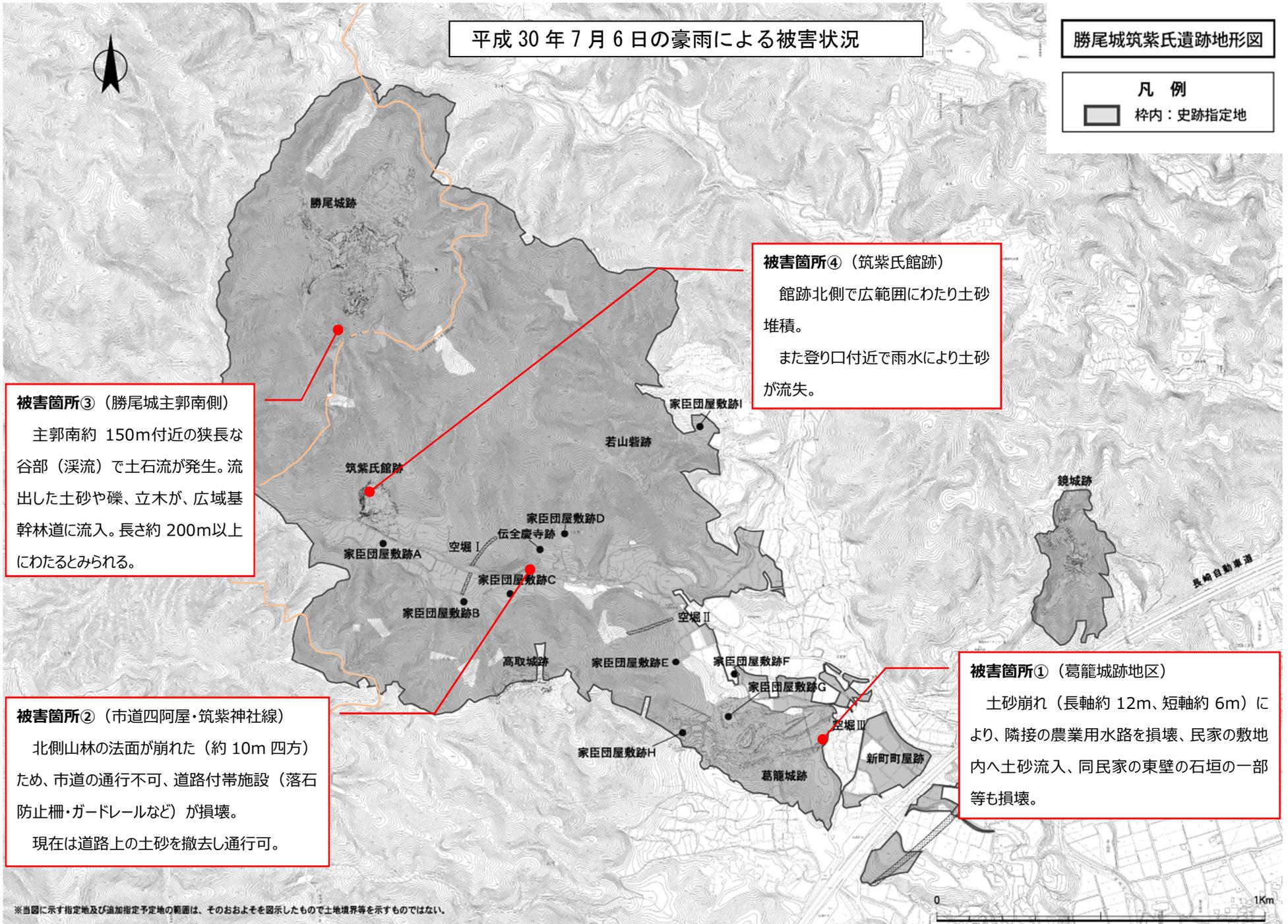


# 平成 30 年 7 月 6 日の豪雨による被害状況

## 勝尾城筑紫氏遺跡地形図

### 凡例

■ 枠内：史跡指定地



被害箇所①



1. 土砂崩れの様子



2. 農業用水路の崩壊



3. 民家敷地内への土砂の進入・堆積

被害箇所②

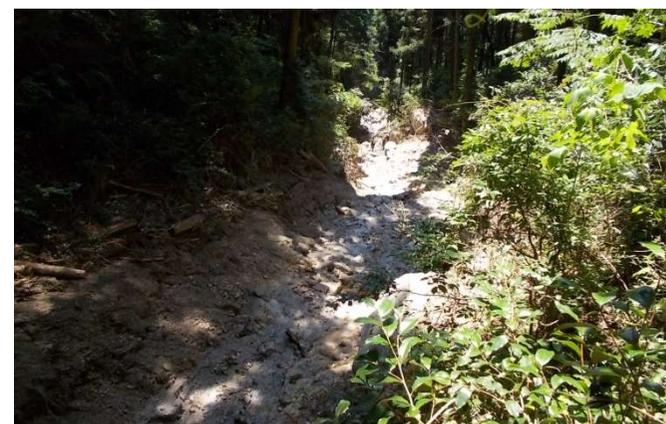


4. 法面の崩落による市道への被害



5. 土砂崩落によるガードレールの損壊

被害箇所③



6. 谷部の浸食



7. 広域基幹林道上の土砂等の堆積

被害箇所④ (8. 館跡登り口の浸食状況)



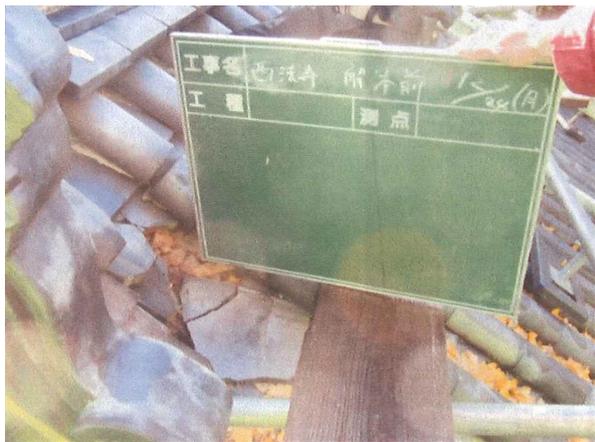
## 2 現地視察

(1)市重要文化財 西法寺の四脚門

修理前



西（本堂側）から



平瓦破損状況



屋根下地腐食状況



北側箕甲下地状況



屋根の雨漏り状況

修理後



西（本堂側）から



下地垂木の補強



野地板の補修



平瓦の取付



北側箕甲の瓦の取付

六日田代驛寄肥前閑叟候

六日 田代驛より肥前閑叟候に寄せる

現代語訳（意訳）

妖霧起雲雨暗濛

妖霧雲を起し 雨暗濛

路頭楊柳舞東風

路頭の楊柳 東風に舞う

政如猛虎秦民怨

政 猛虎の如く 秦民怨む

今日何人定漢中

今日 何人が漢中を定めん

妖しい霧は雲となり雨は周囲を暗くして（未来に全く希望が

見えない）

道端の柳（民衆）はただ東の風（幕府の圧迫）のなすがまま  
になっっている

政（秦の始皇帝の本名。ここでは幕府あるいは長州藩内の保  
守派を指す）は猛々しい虎のようで、秦の民衆（志のある士  
民）は怨んでいる

いったい誰がこのような秦の国を倒して中国全土を統一す  
るといふのか（今日の政治の混乱を収める英雄を衆人は求め  
ている）

(解説)

この漢詩は、「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し」と後年伊藤博文が評した、幕末の長州藩士高杉晋作(一八三九—一八六七)が、この田代の地に残した足跡を示すものです。

対馬藩の勤王派の代表格である平田大江が奥役(代官)に就いていた当時の田代は、勤王志士たちにとっては策謀地や避難地としての役割を果たしており、数多くの志士が出入りしていました。

元治元年(一八六四)七月の「蛤御門の変」により朝敵となった長州藩は、四か国連合艦隊の下関攻撃でも痛手を負い、やがて幕府の征長軍に屈服します。藩内では幕府に恭順する保守派による尊王攘夷派への弾圧が始まり、高杉ら数名の志士たちは逃れるようにして九州に渡ります。彼らは福岡藩や佐賀藩との連携を図って幕府に対抗すること(「肥筑合従策」)を画策していたようです。

この漢詩は、こうした背景のもと、同年十一月六日に田代を訪れていた晋作が佐賀の前藩主の鍋島閑叟(直正)に宛てて書き、近く佐賀に説得に行く予定となっていた平田に託したものと考えられます。閑叟に現状を打破してもらいたいと

の、晋作の強いメッセージでしたが、佐賀藩は情勢静観の姿勢を崩さず、同九日に佐賀に入った平田は門前払いされたため、この漢詩が閑叟の目に触れることはなかったようです。

この後しばらくの間、晋作は福岡平尾の野村望東尼のもとに潜伏していましたが、やがて九州諸藩に頼るべきものはいないと悟り、同月二十五日には長州に戻って行動を開始します。翌十二月十五日に決起(「下関拳兵」)、藩内戦に勝利して藩論を武備恭順(長州藩の主張が認められなければ朝廷・幕府と戦う)に統一させ、幕府の長州再征(四境戦争)に挑むのです。

自作の詩歌の草稿を多く残した晋作ですが、こうした足跡をたどると、この詩は自らを鼓舞させるとともに、その決意を示したものともいえます。

なお、福岡藩や対馬藩ではこの後に勤王派の大弾圧が行われ、平田も慶応元年(一八六五)に藩命で殺害されました。前途有望な人材を自ら枯渇させた福岡藩や対馬藩は、時勢に大きく乗り遅れることになりました。